國學院大學学術情報リポジトリ

2015年度のトピック
日本文化研究所設立60周年記念事業

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001874

日本文化研究所設立 60 周年記念事業

國學院大學日本文化研究所は、1955（昭和30）年に設立され、2015 年に設立 60 周年を迎えた。よって、2015 年度には、それを記念した諸行事・事業が複数行われたので、以下ではその概要を報告する。

（1）第41回　日本文化を知る講座「「日本文化」研究のこれまでとこれから」

日本文化研究所では、1990 年の秋より春・秋各 4 回の「日本文化を知る講座」を実施してきた。渋谷区教育委員会の協力も得ながら、大学の研究情報・成果を公開し、社会へと還元すべく行われてきたものである。2007 年の研究開発推進機構の開設以降は機構主催の行事として、毎年 6 月ごろに全 4 回で開催されている。

第 41 回「日本文化を知る講座」は、「日本文化研究所 設立 60 周年 記念講座」として、2015 年 6 月 6 日・13 日・20 日・27 日（いずれも土曜日）の 4 回にわたり、本学常磐松ホールにて開催された。

今回の講座は、共通テーマを「「日本文化」研究のこれまでとこれから」と設定した。日本文化研究所で行われてきた多様な研究テーマの中からいくつかの柱を取り上げ、これまでにどのようなことが明らかにされてきたかを振り返るとともに、今日のグローバル化時代においてこれからどのようなことが課題となるかを明らかにすることを目指した。具体的には、神道・国学研究、民俗学、日本文化研究の海外発信、日本文化と宗教文化の教育、の 4 テーマを取り上げ、各講師に講演いただいた。

各回の講師と演題は、以下の通りである。

第 1 回　6 月 6 日
　江上敏哲氏（国際日本文化研究センター情報管理施設資料課 資料利用係長）「日本文化研究と海外発信」
第 2 回　6 月 13 日
　新谷尚紀氏（國學院大學文学部教授）「民俗学の新たな展開と展望」
第 3 回　6 月 20 日
　岩井洋氏（帝塚山大学学長）「グローバル化のなかの日本文化と宗教文化教育」
第 4 回　6 月 27 日
　伊藤聡氏（茨城大学文学部教授）「中世神道研究の回顧と展望」

なお、各回の講演内容の概要は、『國學院大學研究開発推進機構 機構ニュース』18 号（2016 年 2 月）に掲載されているので参照さ

れたい。いずれの回も、百数十名ほどの参加者があった。

(2) 公開学術講演会「「日本文化」研究の展望」

公開学術講演会は、日本文化研究所が一貫して実施してきた事業の一つで、1956 年 4 月に岩橋小彌太・柳田國男の講演が行われて以来、春季と秋季にそれぞれ 1、2 名が講演するスタイルで続けられてきた。2007 年の研究開発推進機構の開設以降は、機構主催の行事として毎年秋に行われている。

2015 年度の公開学術講演会は 10 月 24 日（土）、研究所設立 60 周年記念事業の一環として、翌 25 日の国際研究フォーラム（後述）とともに「「日本文化」研究の展望」を共通テーマとして企画された。井上順孝・研究開発推進機構長・日本文化研究所長を講師として、「現代宗教は古代宗教と何が違うか？―宗教進化論再考―」の演題で、本学常磐松ホールにて開催された。学内外から約 130 名の参加があった。

井上氏は講演の趣旨を、「宗教は歴史的に多様な展開をし、今日の状況に至っているが、日本の宗教文化という観点からすると、現代宗教の多様性とそこに至るダイナミズムはどう捉えられるか。ダーウィンの進化論の意味、特に淘汰という概念を再考し、近年の脳科学や認知科学系の研究を参照して、新しい研究視点を提示することを試みる」ことだと述べた。日本の宗教状況や世界の宗教史を概観するなかで、脳科学や進化生物学、進化心理学などの先進的な研究成果を摂取・応用しながら考察する手法を広く提示した。

講演の最後に井上氏は、存続している宗教現象は進化の過程にあると言え、対象を前にしてより基本的と思われる事柄への具体的な疑問を見つけること、宗教を研究する上で欠かせないものを見つけ、それらと取り組むことの重要性を強調した。

なお、講演内容の詳細については、『國學院大學 研究開発推進機構 紀要』第 8 号（2016 年 3 月）に収録されている。

(3) 国際研究フォーラム「「日本文化」研究の展望」

10 月 25 日（日）に、国際研究フォーラム「「日本文化」研究の展望」が、本学常磐松ホールにて行われた。国際研究フォーラムは、日本文化研究所が研究開発推進機構の一機関に改組されて以来、毎年秋に国内外から研究者を招いて行ってきている。2015 年度は、前日の公開学術講演会とテーマを合わせて、研究所設立 60 周年の記念行事とした。

本フォーラムは、「日本文化」研究の新たな展望について検討することを目指し、さまざまな切り口から先端的な研究を行っている研究者 4 名に発題を依頼した。

パネリストと題目は以下の通りである。

発題 1：
篠田謙一氏（国立科学博物館人類研究部長）「DNA で読む日本人の形成史」
発題 2：
スチュワート・ガスリー Stewart E. Guthrie 氏（フォーダム大学名誉教授）" Religion as Anthropomorphism: A Cognitive Theory"
発題 3：
ウィリアム・ケリー William W. Kelly 氏（イェール大学教授）" Is Japan a Lost Cause or a Sustainable Model? An Anthropological Perspective on the Contemporary Society"
発題 4：
河野哲也氏（立教大学教授）「アフォーダンスと生態学的倫理学の構築」

その後、井上順孝・日本文化研究所長によるコメントを受けて、活発な総合討議が行われた。なお、司会は松村一男氏（和光大学教授）にお願いした。

本フォーラムにおける発題・議論に基づき、國學院大學日本文化研究所編・井上順孝責任編集『〈日本文化〉はどこにあるか』（春秋社、2016 年 8 月）が刊行された。

（4）特別展示「写真で見る日本文化研究所の60年」 記念懇親会

公開学術講演会と国際研究フォーラムに前後する 10 月 23 日（金）～ 25 日（日）の期間、特別展示「写真で見る日本文化研究所の 60 年」が、常磐松ホール前の多目的ホールにて実施された。日本文化研究所の草創期の人物・建物、これまでの講演会やシンポジウムの様子など、研究所の歩みを 60 枚余の写真パネルで振り返る展示を構成した。両行事の来場者の多くも足を止め、懐かしくかつ貴重な写真の展示に見入っていた。

また、同写真パネルは、12 月 12 日（土）～ 13 日（日）に行われた國學院大學博物館国際シンポジウム・ワークショップ 2015「博物館の国際的ネットワーク形成と日本文化研究」の期間にも、博物館エントランスにて展示された。

10 月 24 日の公開学術講演会後には、日本文化研究所 60 周年を記念した懇親会が、本学の有栖川宮記念ホールにて、研究開発推進機構の主催により開かれた。研究所の代々のスタッフら数十名の出席があり、旧交が温められた。また、過去の行事などの写真・映像も上映され、これまでの歩みが振り返られた。

（塚田穂高）